

# かま屋通信

毎日 いたします

2024 年

3月号

vol.78

(山本深筍さんの俳句)

青籠や  
とうかえびす  
十日戎の  
ふくだわら  
福俵

神山俳句会



いつも思って行きたかった提案は、いろんな人のアイディアによつて育まれ、農家さん同士の交流、勉強会の時間が加わり、『ファーマーズ・ミーティング』といふ形になつていきました。その頃ちょうど神山に滞在していた私は、より近くで農家さんと接する由で感謝の想いとともに、長年農業を支え

た食に携わる私たちに本当に大きな力を与えてくれました。あの日、農業長の白桃が言つたように「私たちの心に種が巻かれた播種日」、スタートの日だつたと 思います。あれから4ヶ月、アリ

もの農家さんへ感じてもらえるのではあります。ただ「会ってもうえたらいいな」という思いで行った提案は、いろんな人のアイディアによつて育まれ、農家さん同士の交流、勉強会の時間が加わ

イベント当日は、つなぐ農園の畠を前に農法の話をしたり、経営農業に対する思いなど、普段話すことのできない話を農家さん同士で行なうことができました。そしてアリスが繰り返し語った「Farmer First／ファーマーズ・ファースト」という言葉が表すように、彼女が生産者の方々を讃える姿勢はした。

昨年10月15・16日に『ファーマーズ・ミーティング』を開催しました。東京にある『ザ・ブラインド・ドンキー』やフードハブと繋がりがある農家さんが全国から神山に集まるという会です。当日の具体的な内容はインスタグラムでご紹介しているので、こちらではそこまで書かせていただきます。

開催のきっかけは、アメリカで地産地食を牽引してきたアリス・ウォータースさんが神山を訪れるなどを知り、「農家さんにアリスに会ってもらいたい」という思いからでした。私自身もアリスから大きな影響を受けていますが、豊家さんの中にも彼女から大きなパワーをもらっている方々がいることを知っていました。もし彼女に会うことができたら、彼女にしか

てきた方々が高齢となり引退し始め、それは若い人たちがカバーしきれない大きな力であったということに気付きました。気候や環境が変わる中で農業というものがより難しくなっていること、さらに深刻な歴史にあった農家さんの話を聞いたりと、個人で向きあうにはあまりにも大きすぎる壁を知り、このイベントで生まれた繋がりを通して、「これから食に協力して」

私はこの春『CIMI restorant／チミーノストラン』というお店を始めます。イベントの準備をしながら、ジンローラや真鍋と準備を進めてきたプロジェクトです。フードハブのメンバーにもたくさん試食をしてもらひ、形になつていきました。店名である「CIMI」はその土地の味、豊かな土を意味し、私たちの身体だけでなく、地球環境の健康をも同時にケアする料理とは

農家さんが、あつて『Jモ  
『ファーマーズ・ミーティング』を縁に



CIMI restorant  
向井知

スの日本での旅が記録された映画が完成しました。ひと足先に映画を観ることができ、すっかり遠い昔のように思えていたあの日が蘇り、今の自分を見つめ直していくま

しく甘い  
風味をも  
ち、紫い  
白の2色  
がとても  
美しかっ  
たです。

日の産食率です！振り返つて「美味しかったなあ」としみじみ思い出すお野菜が二つ。一つ目は『オロノ』のシルクスイート（さつまいも）。かま屋ではシンプルに天ぷらにしましたが、甘くて口当たりがなめらかで、さつまいもの天ぷらのモデルになるような一品でした。二つ目は『今津自然農園』の横川つばめ大根。サラダにピッタリの

1月の  
産食率  
**61**  
%

料理人  
見習い：  
大野美砂



みなさんこんにちは。東京の高円寺から神山に来て3年、神山校の菊井智裕です。神山に移住してきた人、これから移住したいと思う人は、なぜそう願つたのでしょうか。綺麗な自然?人の温かみ?今では神山の良さをたくさん学ぶことができた僕の原点は、まさに「食」だったような気がします。

強いアレルギー体質と共に生きてきた僕は、物心ついたときからオーガニックや自然農法で作られた食べ物を与えられて育ってきました。アレルギーの影響は最小限に留まり、今まで食べることのできなかった卵焼きを初めて食べた時は感動しました。ここまで息子の健康のために尽くしてくれた両親には感謝しかありません。そんな両親は、フードハブ・プロジェクト設立当初から情報を追つて神山のことを知つていくようになりました。

僕が中学3年の頃、進路に悩んでいた僕に両親は「地域みらい留学」、それも『城西高校神山校』を勧めました。徳島には縁もなく、最初は正直そこまで乗り気ではありませんでした。が、神山校の授業や部活動に興味が湧いて実際に神山に何度もが、神山校の授業や部活動に興味が湧いて実際に神山に何度も

山に訪れた夏の日、真昼のかま屋に入ったあの時間が神山への移住を決定づけました。賑やかな店内で食べたチキン南蛮のランチ。すごくおいしかった。特にふっくらと味わい深いお米が決め手になりました。

そこからは早く、神山に生きる人たちと関わったことでより神山への気持ちは強くなっています。翌年には神山校への入学が叶いました。

顔を出し、何も頼まず雑談などほんの少しだけのお手伝いのあとに用意してもらったジュースも、友達と食べたかまパンのベーコンエピも、ほんの3年しか感

送り出してくれた家族の信頼を損ねるようなこともたくさんありました。それは小さな嘘から大きな出来事まで数え切れないほどです。後悔がいつまでも拭

での失敗も成功も還元したいと、この3年間、人に出会い、歴史に出会い、自然に出会い、大事な友達に出会って生まれたこの時間は僕の心を豊かにしてくれました。しかし、神山に出逢つて得たもの、感じたものを忘れてしまう時もたまにありました。

これからも、この町には僕だけではなく神山高専にいる妹も長い間お世話になります。頑張っている妹がすぐそばにいるからこそ、より神山のために自分ができることを一生懸命にやりたいです。3年間しか感じられないですが、それがこの広い果樹を先代から受け継いで大きくできる

藤森さんはご自身で「負けず嫌いの気にしい」と語られていますが、それがこの広い果樹を先代から受け継いで大きくできる要因なのだと感じました。気候の変化などがあり、毎年同じように育てていては上手く生育できない状況。新しいことにはまづチャレンジするという精神で大事に果樹を育てていらっしゃいました。一緒に支えてくださる奥様とともに、一年という長い時間をかけて大事に育てられたみかんを高専の学生にもしっかり届けます。

## “食”の力に引き寄せられ 4年目の青春を神山で味わいます

じることのできない青春の味でした。

でも僕は、神山で暮らしていく。自分を今まで支えてくれた人たちと友人、神山に感謝してもしきれません。僕がこの町で暮らしていくことは町にとってもいいことは限らないし、しっかりと恩返しができるかはわかりません。でも、僕のこの町

一旦、立ち去りました。



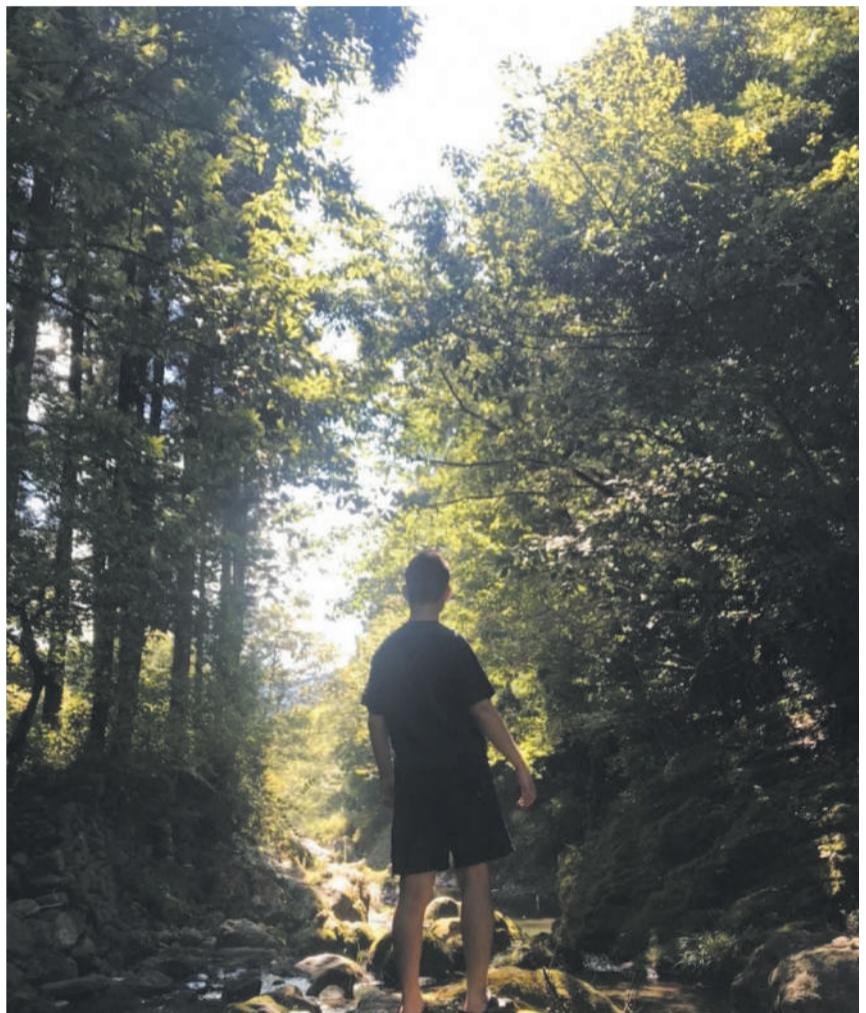
かん・ダイダイと多岐に渡ります。

そのため繁忙期がない状況。新しいことにはまづチャレンジするという精神で大事に果樹を育てていらっしゃいました。一緒に支えてくださる奥様とともに、一年という長い時間をかけて大事に育てられたみかんを高専の学生にもしっかり届けます。

## あゆハウス 便り



城西高校神山校  
菊井智裕



### 里山の会 からの手紙

今月の人:  
上地 文子さん

昨年四月に神山まるごと高専が開校し、二月で一年修了を迎えます。そもそも料理は苦ではありません。

孫と同年代の学生さんと接していると親近感が湧き、「おいしかったです」「夜もお願いします」と声掛けしてもらいうと「ありがとうございます」と返します。「いらっしゃい」と送り出して昼の準備。



## 曲巒地、 拌貝!

神山まるごと高専食堂  
田原佳奈



です。11月下旬に伺った際は、上から見下ろす山の斜面に立つ木に、立派なみかんがたくさん成っていました。みかんは年内にすべて収穫し、2月頃にかけて徐々に出荷されています。

鬼籠野で先代から引き継いで果樹を育てている藤森さんの農地へお邪魔しました。きっかけは『神山まるごと高専』の食堂でみかんがとても人気があり、神山でも育てられているというお話を聞いてお伺いしました。育てられている果樹は、すだちをメインに梅・み

いの氣にしい」と語られていますが、それがこの広い果樹を先代から受け継いで大きくできるといえず、何より自分を信じることができます。それでも、何より自分を信じることができないこともあります。

藤森さんはご自身で「負けず嫌いの氣にしい」と語られていますが、それがこの広い果樹を先代から受け継いで大きくできるといえず、何より自分を信じることができます。それでも、何より自分を信じることができます。

たので、四月からまるごと食堂で働き、学生さんや先生方、ゲストの方たちの昼食を作っています。



